

変わらない思い 明日をひらく

120周年記念誌



KAISEIKA
120th



学校法人 伊藤学園
甲斐清和高等学校
KAISEIKA HIGH SCHOOL

校 訓

「誠実 勤勉」

教育目標

「豊かな生活能力をもつ道義高き人間を育成する」ことは伊藤学園建学の精神である。この精神に基づき、私学の公共性と自由の態度とを保ちつつ、学校機構の親和一体の活動により、次の目標の達成を期する。

【1】豊かな生活能力を期する。

健康の増進をはかり、職業能力を身につけ、勤労愛好の習性を得させる。

【2】道義高い人間を育成する。

- (1) 至誠にして、平和を愛し、公共性に慣れさせる。
- (2) 責任をはたし、礼儀を守り、情操豊かな性格を養わせる。
- (3) 批判力を養い、自治的活動を高め、社会的貢献に努めさせる。



校章の変遷



【伊藤学園創設者 伊藤うた】

- ・1868 (明治 元) 年 - 0 歳 12 月 10 日、北巨摩郡穴山村 (現在の韮崎市穴山町) の守屋家に生まれる。父真清 (ますが) ・母よし、五男五女の長女
- ・1879 (明治 12) 年 - 10 歳 10 月、穴山小学校卒業
- ・1883 (明治 16) 年 - 14 歳 2 月、山梨女学校 (後の山梨県女子師範学校) 小学師範科卒業
- ・1888 (明治 21) 年 - 19 歳 1 月 18 日、穴山村の伊藤祐愛長男・又六に嫁ぐ。二男二女をもうける
- ・1897 (明治 30) 年 - 28 歳 7 月、夫・又六と死別
- ・1899 (明治 32) 年 - 30 歳 10 月、東京裁縫女学校 (現在の東京家政大学) 入学
- ・1900 (明治 33) 年 - 31 歳 4 月、速成科卒業
11 月 8 日、山梨裁縫学校を甲府市代官町に創設
12 月 1 日、開校式を挙行
- ・1918 (大正 7) 年 - 49 歳 4 月、山梨実科高等女学校 (後の甲府湯田高等女学校) を設立
- ・1925 (大正 14) 年 - 56 歳 4 月 21 日、山梨県都市連合教育会から教育功労者として表彰を受ける
- ・1927 (昭和 2) 年 - 58 歳 5 月 17 日、藍綬褒章を受章
5 月 22 日、山梨県教育会から教育功労者として表彰を受ける
11 月 26 日、甲府市教育会から教育功労者として表彰を受ける
12 月 7 日、財団法人伊藤学園を設立、理事長に就任
- ・1933 (昭和 8) 年 - 64 歳 11 月 11 日、帝国教育会から教育功労者として表彰を受ける
- ・1934 (昭和 9) 年 - 65 歳 4 月 11 日、死去

校章の精神

「強く、清く、品よく」

- (1) 雪中の梅花である。
- (2) 雪は難苦を象徴し、梅花の色は清浄、香は奥ゆかしさを象徴する。
- (3) 梅花が雪とたたかって色香を発揮する如く、人生の難苦とたたかって清浄心と奥ゆかしさを益々高めようとする。
- (4) 換言すれば、強く、清く、品よく、を理想とする。

校歌・校旗

校歌

伊藤うた作詞
澤田春一作曲

一 朝日匂ふ春の花

柳櫻をこきまて

開學の窓の庭

乙女毎に榮えなむ

二 夕に映るもみぢの

赤き心の綾錦

織女學びの窓の夜

乙女毎に勵まなむ

甲府湯田高等学校
甲府湯田中学校

校歌

北川冬彦作詩
高田三郎作曲

一

甲斐駒白根の雲うつくしく
若鳥のように

はばたくいりちの乙女子の
たのしい日々よ

学園湯田 ああ母校

二

荒川堤に陽はきらきらと
日まわりのように

けなげにいそむ乙女子の
甲斐ある日々よ

学園湯田 ああ母校

三

雲中梅花の空すけめたり
富士の嶺のように

けだかくゆかい乙女子の
栄えある日々よ

学園湯田 ああ母校



甲斐清和高等学校 校歌

太陽の旅路

作詞 賞和歌子
作曲 近藤幹雄

誰か誰か見たことのない夢

きこえきこえと叶えよ約束す

何れ風がわたしを試すのなら

この一歩むづで挑んでいくだけ

雪にまぐいちりんのサレ

その凛々さと瞳にらみつけて

はよがはよが 途方もない未来

君とおなじくゆがれない宝もの

青い空をこころの鏡にして

ありのままの自分をうつしていきな

君と今太陽の下

歩き出していく 果てない旅路を

創立 120 周年 新たなる前進を期して



理事長・学校長

伊藤 祐寛

令和 2 年 12 月 1 日は、学園創立から 120 周年という記念すべき大きな節目の日となる。創立 110 周年の際も記念誌を発刊したことはいまだに記憶に新しく、「甲斐清和高等学校」という新校名に改称、同時に行われた完全男女共学化からも 10 年目となるかと思うと、月日の流れの早さをしみじみと感じる。この間の記録を編纂する中で改めて、10 年間の活発で充実した日々を振り返り、楽しくも懐かしくもあるのと同時に、今後の学園の新しい目標を考える良い機会となると感じているところである。

先述のとおり、学園は西暦 1900 年(明治 33 年)12 月 1 日、甲府市代官町(現在の相生 2 丁目)の地に、学祖・伊藤うたにより「山梨裁縫学校」として創立された。創立以来、明治、大正、昭和、平成そして令和と、将来日本を担う若者への教育を行い、3 万名余に及ぶ卒業生を輩出してきたことは、本学園が積み重ねてきた歴史が生んだ宝である。

120 年間、学園は時代の要請に応じて学校、また学科などの再編を繰り返してきた。しかし、一貫してきたのは「豊かな生活能力をもつ道義高き人間を育成する」という建学の精神に基づいた「生徒一人ひとりに、豊かで確かな生きる力を培うとともに、生活を律する道徳心を育む教育」という、学園の柱となる理念である。この建学の精神は古びることなく光を放ち続け、特に今を生きる生徒たちにこそ必要なものとなっているのではないだろうか。変化の激しい現代社会、そして予測不能な将来において「全てに於いて、自らが適切に判断し主体性を持って生きぬく力」は必要不可欠であるからだ。生徒一人ひとりが持つ個性を最大限に生かし、いつの世にあっても変わらぬ「道徳心」を胸に、自分らしい人生を生きていく礎を築く——この学園はこれからもそんな場でありたいと考える。

120 周年にあたり、将来の学園の姿を再度見通すことで、この大きな節目を社会に貢献する立派な人材を輩出するための新たなスタートラインとして、心を新たにするとところである。そして学園として、最適な教育を行っていくことを、皆様にお誓いする次第である。

終わりに、記念誌の刊行に当たり、ご尽力いただいた関係教職員、同窓会役員、並びに記念誌発刊における関係各所の皆様方に感謝いたすとともに、学園のさらなる成長を祈念し、刊行に寄せるご挨拶とする。

120 周年を迎えて

甲斐清和高等学校同窓会
会長

神澤 玲子

皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、心よりお慶び申し上げます。平素は同窓会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

母校は明治 33 年、学祖伊藤うた先生によって創立されました。それから長き年月を経て、今年は 120 周年という記念すべき年にあたります。明治、大正、昭和、さらに平成、令和の時代へ、建学の精神は脈々と引き継がれております。道徳教育を尊ばれたうた先生は、この学び舎を巣立っていった生徒の皆さんが道徳にかなった正しい道を、強く、清く、品よく歩んでいかれることを願っていらっしゃると思います。その思いの通り、「豊かな生活能力をもつ道義高き人間を育成する」の教育理念と、「誠実・勤勉」の校訓によって崇高な精神を育んだ同窓生たちは、各分野で活躍し、地域社会に貢献しております。

学園は、この長い歴史の中で受け継がれてきた建学の理念を基本に、これまでの理念を継承しつつ、時代の流れを受けて新しい試みにも取り組んでいる様子です。その中でも、この 10 年において特筆すべきものが、完全男女共学化です。平成 12 年、再三の要請に応える形で音楽科への扉を男子に開いたのを皮切りに、平成 23 年、「甲斐清和」へと校名が変わると同時に完全共学となりました。平成 25 年 3 月に最後の女子クラスが卒業したとき、同窓生の私は少し複雑な気持ちで見送ったのをよく覚えております。また、平成 27 年度からは通信制課程を開校するなど、さらなる改革が行われており、今後どのような進化を見せてもらえるのかと期待を膨らませております。

同窓会といたしましては、創立 120 周年を 1 年後に控えた昨年、会員名簿を発刊いたしました。その際には、皆様には多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。今年に入り、新型コロナウイルスが発生、あっという間に世界中に感染が拡大したのは皆様ご存じのとおりです。その影響を受け、学校も長く休校が続き、生徒の皆さんはもちろんご家庭、学校現場でのご苦労は計り知れないものであったと推察申し上げ、また同時にいつものなげない日常がかけがえのないものであったと感じております。一日も早く平穏な日々が戻ることを祈るとともに、皆様のご健康と母校のますますの発展を願い、皆様のご支援、ご協力を今後ともお願い申し上げます。

創立 120 周年記念誌発刊によせて



山梨県知事

長崎 幸太郎

甲斐清和高等学校が創立120周年を迎えられましたことに対しまして、心よりお祝いを申し上げます。

貴校は、明治33年、学祖伊藤うた先生によって、甲府市代官町（現在の相生二丁目）に山梨裁縫学校として創立され、当時わが国では十分に顧みられていなかった女子教育への道を、伊藤先生は女手一つで切り拓かれ、雪の中に、けなげに咲く一輪の梅の花のごとく、厳しい状況にあっても一人立ちできる女性の育成に努められてきました。

以来永きにわたり、めまぐるしく変化する我が国の社会情勢の中にあっても、貴校におかれては、崇高な教育理念を守り続け、本県における女子教育機関の中核としての役割を担い続けてこられました。

このような中、近年では、校名を「甲府湯田高等学校」から現在の「甲斐清和高等学校」に改められ、完全男女共学に移行されるとともに、新たに通信制課程を開校され、生徒たちの多様な学びのニーズに応えるための教育の推進に取り組まれています。

また、音楽、福祉、情報など、幅広い分野の教育にも取り組まれ、「豊かな生活能力をもつ道義高き人間を育成する」という建学の精神の下、本県屈指の伝統ある私立高等学校として、その隆盛を見るに至っておられますことは、誠に慶賀に堪えません。

このように輝かしい伝統と、「誠実、勤勉」の校訓、さらには「強く、清く、品よく」の雪中梅花の精神によって輩出された多くの優れた人材が、各界で活躍され、本県の産業・文化の発展にも大きく貢献していただいておりますが、今後とも、永き歴史に新たな伝統を積み重ねながら、本県高校教育の充実と発展に一層御貢献いただけますことを御期待申し上げます。

最後に、このたびの120周年を契機に関係の皆様が思いを新たにされ、貴校がますます発展されますことを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

創立 120 周年記念すべき節目によせて



令和 2 年度 P T A 会長

反田 賢一

明治 33 年 12 月 1 日から、脈々と受け継がれてきた伝統。創立 120 周年、誠におめでとうございます。保護者を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。

学祖伊藤うた先生の教育理念の基、厳しい社会情勢の中、幾多の変遷を経て、120 周年の節目を迎えられましたことは、ひとえに歴史と伝統の重みを感じずにはいられません。山梨裁縫学校として創立し、女子教育の道を拓き、明治から、時代の流れとともに、その時代に即した教育がなされて来ました。また、平成 23 年には、「甲斐清和高等学校」に改名され、年号も令和となった現在は、完全男女共学となり、普通科・音楽科、各科には将来を見据えたコース選択ができ、生徒一人ひとりの個性や創造性を尊重し、自らが何をどのようにして学んでいくのか様々な選択肢が用意されています。このような素晴らしい教育環境は、私立高等学校の学園創始者の理念に基づく教育方針と「建学の精神」を柱とした個性豊かな学園文化と特色ある教育カリキュラムによるところです。

さて、これからは国際化、情報化が一段と発展していくと同時に少子・高齢化といった課題の中で、教育の様相や学校の役割も大きく変わっていくものと思われます。このような時代の急激な変化の中で、今まで受け継がれてこられた「豊かな生活能力をもつ道義高き人間を育成する」という建学の精神の下、正義感や倫理観、他人への思いやりの心をもつ人材育成が大変重要になってきます。令和 2 年の現在、未だ先の見えない新型コロナウイルスと闘っていますが、この事だけではなく、この先も様々な難題が待ち構えていることと思います。

最後に、校長先生をはじめ、教職員の方々、保護者の皆様と、この記念すべき 120 周年に立ち会えたことに感謝致します。この輝かしい歴史と伝統が次の時代にも永遠に続くことを祈念申し上げます。

歴代 校長



初代校長
興石 守郷



二代校長・創立者
伊藤 うた



三代校長
奥山 新治郎



四代校長
藤波 国途



五代校長
松村 虎造



六代校長
三島 新吉



七代校長
稲葉 人志



八代校長
斎藤 俊章



九代校長
伊藤 信



十代校長
中山 眞次



十一代校長
伊藤 信



十二代校長
伊藤 祐寛

学校の変遷 [明治・大正・昭和(戦前)]



山梨裁縫学校第7回記念会（明治40年）



学校全景（大正～昭和の初期）



裁縫教室（昭和12年）



調理・授業風景（大正12年）



正月用生花練習（昭和10年）



うた先生の胸像（昭和5年建立 左）／
焼け残った1本の正門石柱（昭和21年）

「女性の自立」を目指した創成期から 山梨の女子教育の拠点へと発展

1900（明治33）年11月、山梨裁縫学校が甲府市代官町（現在の相生2丁目）に、生徒6名で設立された。12月1日の開校式の際には生徒は本科12名、速成科14名となり、以後この日を創立記念日としている。学祖・伊藤うたが年若かったことから、うたの父と同門で伊藤家の遠縁でもある、稲積神社神官の興石守郷を初代校長に迎えての門出となった。

1911（明治44）年、興石死去に伴い、うたが2代目校長に就任。さらに山梨県の女子教育に注力するため、1918（大正7）年に山梨実科高等女学校を開校し、同時に山梨裁縫学校を山梨女子実科学校と改称（1922年に山梨実科女学校、1939年に甲府高等家政女学校に改称）、1921（大正10）年には山梨実科高等女学校の小学校準教員養成所を設置する。

1925（大正14）年、4年制高等女学校への昇格に伴い、山梨実科高等女学校を所在地にちなんで甲府湯田高等女学校と改称。1927（昭和2）年には県内初の女子商業学校である甲府女子商業学校を、その年の末には財団法人伊藤学園を設立し、在籍生徒数は950名と、堂々たる女子教育の拠点となっていく。

1934（昭和9）年、うたが65歳で死去。時代が戦争の色を深めていく中で、伊藤学園3校の生徒たちも学徒動員の対象となった。そして、1945（昭和20）年7月の甲府空襲により、校舎は全て焼失。ただ1つ焼け残った伊藤学園正門の石柱とともに、学園は戦後の復興へと歩んでいくこととなる。



KAISEIKA
120th

[昭 和 (戦 後)]

学 校 の 変 遷

「甲府湯田高等学校」として
いまにつながる礎を築く

戦後、伊藤学園は女子学校としての道を守りながら、新学制に対応していく。1948(昭和23)年には甲府湯田高等学校を設立、戦前の3校を統廃合し、1951(昭和26)年には普通科を新たに設置、経理科を商業科、家政科を家庭科に名称変更して戦後教育を本格的にスタートさせた。

創立60周年となる1960(昭和35)年、伊藤うた作詞の「朝日に匂ふ春の花」から始まる初代校歌から、「学園湯田ああ母校」のフレーズが印象的な二代目校歌へと移行。1963(昭和38)年には鉄筋校舎の建築を開始、1967(昭和42)年の歩道橋完成、里吉グラウンドの造成など、戦後の発展を象徴する変化の中で、現在の学園の礎が築かれていった。



復興後の第1号校舎(昭和25年)



昭和28年頃



校内球技大会(昭和35年)



全校集会(昭和35年)1500名



校舎全景(昭和36年)

英文・和文タイプライター
(昭和40年頃)

県高校商業実務競技大会団体優勝(昭和40年)



創立80周年記念式典(昭和55年)体育館

[平成(前期)]

学 校 の 変 遷

時代のニーズにこたえ、
学科の新設・再編、
共学化はじまる

平成という新たな時代を迎え、学園もその姿を変えていく。

1994(平成6)年、普通科に音楽コース、情報教育の先駆けとして情報ビジネス科を設置した。1996(平成8)年に音楽コースは音楽科へと名称変更し、2000(平成12)年には、100年の歴史の中で初めて男子生徒を迎えることとなる。その後、科・クラスごとに徐々に共学化が進んでいく。

さらに、2002(平成14)年には、介護福祉科・普通科人間文化クラスを新設し、情報ビジネス科も情報メディア科に科名変更。国際感覚育成のために基隆高級中學(台湾)・カーディフハイスクール(オーストラリア)との姉妹校締結や、海外への修学旅行導入を行うなど、時代のニーズに即した教育の推進を図った。



はかま姿で応援 (平成元年)



茶道指導 (平成元年)



スキー教室／霧ヶ峰 (平成元年)



創立 90 周年記念式典 (平成 2 年)



校歌碑除幕式 (平成 2 年)



木目調教室での授業 (平成 3 年)



宿泊ホームルーム (平成 4 年)



沖縄修学旅行 (平成 4 年)



靖和祭／運動会 (平成 5 年)



強歩大会 (平成 6 年)



被服実習 (平成 8 年)



パソコン室での授業 (平成 8 年)



創立 100 周年記念式典 (平成 12 年)



九州修学旅行 (平成 13 年)



県高校総体／開会式 (平成 14 年)



調理実習 (平成 17 年)



シンガポール修学旅行 (平成 21 年)



学校の変遷

[平成(後期)]

「甲斐清和高等学校」へ

2科に改編、完全男女共学化

創立111年目となった2011(平成23)年4月、学園は大きな分岐点を迎えることとなる。校名を「甲斐清和高等学校」に改称、同時に学科を音楽科と普通科の2科に改編し、完全男女共学化を果たした。校歌も前年の110周年式典で披露された『太陽の旅路』へと新しく生まれ変わった。

2015(平成27)年10月には通信制課程を開校し、学びの場をさらに広げた。また同年、伊藤信理事長が死去、伊藤祐寛校長が理事長を兼任することとなった。2019年5月、元号は令和へと変わったが、学園は変わらない建学の精神を胸に、時代の風に乗れ、未来への歩みを続けている。



新校歌「太陽の旅路」披露 (平成22年)



「甲斐清和」へ校名変更 (平成23年)



家庭科棟を解体 (平成23年)



校舎リニューアル (平成23年)



介護福祉士国家試験、全員が合格 (平成24年)



普通科 最後の女子クラス (平成25年)



KAISEIKA
120th



新築された清和ホール (平成23年)



通信制課程を開校 (平成27年)



清和祭/商業クラス「清和市」(平成27年)



伊藤信前理事長 学園葬 (平成27年)



「せいか音楽祭」初開催 (平成30年)



改元記念 人文字 (令和元年)



体育館



記念館ホール



普通教室



歩道橋



和 服
(明治～昭和初期)



ワンピース
(昭和初期)



セーラー服 夏 服
(昭和 30 年代)



森英恵デザイン制服
夏服ベスト (左)
冬 服 (右)
(平成 3 年 4 月～)



冬服ブレザー (上) 夏 服 (下)
(昭和 45 年 4 月～)



冬 服 (上)
夏 服 (下)
(平成 13 年 4 月～)



冬 服 (上)
夏 服 (下)
(平成 21 年 4 月～)



冬 服 (左)
夏 服 (右)
(平成 30 年 4 月～)

令和を迎えて



音楽科／ソルフェージュ



音楽科／アンサンブル



進学コース／理科実験



オンライン学習／スタディサプリ



普通クラス／調理実習



商業クラス／パソコン



商業クラス／簿記



福祉クラス／医療的ケア



人間文化コース／英会話（左）と総合的な探求の時間



福祉クラス／実技実習



令和2年／新型コロナウイルス感染予防対策の中での学校生活



入学式／新入生宣誓 (4月)



新入生歓迎会 (4月)



県高校総体／開会式 (5月)



清和祭／クラス企画 (7月)



清和祭／合唱コンクール (7月)



インターンシップ (6月)



大学見学会 (7月)



フィリピン語学研修 (8月)



壮行会／応援委員長



教養講座 (9月)



球技大会 (9月)



普通科／台湾修学旅行 (11月)



音楽科／ヨーロッパ修学旅行 (11月)



かるた大会 (1月)



スキー教室／しらかば2in1 (2月)



マスク姿での卒業式 (3月)

23 部 2 同好会の活躍

運動部では、男女バドミントン・男女フェンシング・ソフトテニス・ソフトボール・体操の各部が、全国大会や関東大会をはじめとした多くの大会で活躍している。女子フェンシング部は平成3年から全国高校総体で3連覇、県高校総体で平成30年まで7連覇、バドミントン部は県高校総体で男女ともに令和元年まで9連覇を、それぞれ記録している。

文化部では、合唱部がNHK全国学校音楽コンクール山梨県大会で初出場した平成29年と令和元年に金賞を受賞、演劇部が3年連続を含む5回、地区大会を突破して県大会に出場している。

体育局



女子フェンシング部



体操部



ソフトボール部



関東大会出場部



ソフトテニス部



サッカー部



女子バドミントン部



卓球部



男子バドミントン部



ソフトテニス部



バスケットボール部



女子バドミントン部



男子フェンシング部



体操部



ソフトボール部



男子バドミントン部



女子バドミントン部



バレーボール部



サッカー部



体操部

文化局



合唱部



吹奏楽部



書道部



茶道部



JRC 部



箏曲部



ダンス部



調理・被服部



華道部



演劇部



情報研究部



美術・イラスト部



軽音部

1. 伊藤学園役員

2020（令和2）年度 4月現在

○理事	伊藤祐寛・伊藤玲子・神澤玲子・古屋俊仁・丸茂紀彦 篠原豊明・村松 久
○監事	芦澤 薫・芦澤敏久
○評議員	伊藤祐寛・堀内一哉・矢野泰宏・塩沢紀子・齋藤久子・神澤玲子 反田賢一・金丸 隆・古屋俊仁・丸茂紀彦・根津宏次・河野 憲 篠原豊明・飯室元邦・安藤 昇
○学校委員	赤池宗治・田中甲子男・川辺修作・坂本悦子・窪田包久・飯室元邦

2. 沿革

明治 33・11	8 日、学祖伊藤うた甲府市代官町に山梨裁縫学校を創立する。
明治 33・12	1 日、学校の開校式を挙げる。生徒 26 名 この日をもって創立記念日とする。
明治 34・9	甲府市若松町に移転する。
明治 36・12	甲府市愛宕町に移転する。
明治 39・12	甲府市湯田町 51 番地に移転する。（現在の西校地 1,300 m ² 校舎 600 m ² ）生徒 130 名
大正 6・4	校地を拡張し（現在の東校地）、校舎 350 m ² を新築する。生徒 150 名。
大正 7・3	16 日、文部省から山梨実科高等女学校の設置認可を受ける。
大正 7・4	1 日、山梨実科高等女学校を設立し、山梨裁縫学校を山梨女子実科学校と改称する。
大正 10・4	1 日、山梨実科高等女学校の付属として、小学校準教員養成所を設置する。（定員 50 名）
大正 11・4	校舎 760 m ² を増築し、実科高女の定員を 300 名とする。 山梨女子実科学校を山梨実科女学校と改称する。（定員 400 名）
大正 14・4	1 日、山梨実科高等女学校を甲府湯田高等女学校と改称する。（定員 400 名）
昭和 2・3	付属小学校準教員養成所を廃止する。
昭和 2・4	1 日、甲府女子商業学校を設立する。（定員 150 名）
昭和 2・12	7 日、財団法人伊藤学園を設立する。理事長に伊藤うたが就任する。
昭和 9・4	11 日、伊藤うた死去、伊藤祐文理事長に就任する。
昭和 14・4	1 日、山梨実科女学校の学則を改め、甲府高等家政女学校となる。
昭和 20・7	7 日、甲府市戦災により、学園の施設全部を焼失する。（校舎焼失 6,860 m ² ）
昭和 20・7	12 日、仮事務所を伊勢国民学校に設置する。
昭和 20・8	伊勢、穴山、西野、三村、日川、境川の各国民学校に分教場を設置し、授業を開始する。
昭和 21・4	1 日、各分教場の市内集結をはかるため、長禅寺（甲府市愛宕町）に愛宕分教場を設置する。 境川、三村各分教場を廃止する。

昭和22・4	1日、新学制により甲府湯田中学校を設置する。甲府湯田高等女学校並びに甲府女子商業学校の2,3学年は新制中学2,3学年に編入。
昭和22・4	9日、復興第1号校舎が仮竣工する。
昭和22・5	伊勢分教場を富士川小学校に移設し、富士川分教場を設置する。日川、西野、穴山各分教場を廃止する。
昭和22・9	14日、学園PTAを創設する。
昭和23・3	甲府湯田高等女学校、甲府女子商業学校は、在校生全員卒業につき自然廃校となる。
昭和23・4	1日、新学制により甲府湯田高等学校を設立し、経理科、家政科、別科（経理、家政）を置く。
昭和24・3	復興第2号校舎が竣工、愛宕、富士川各分教場を廃止する。
昭和24・3	20日、甲府高等家政女学校は、在校生全員卒業につき自然廃校となる。
昭和25・3	復興第3～第8号校舎が次々と竣工する。（～昭和33・1）
昭和26・3	9日、財団法人の組織を変更して学校法人伊藤学園となる。
昭和26・4	高校に普通科を設置し、従来の経理科を商業科に、家政科を家庭科に名称を変更する。
昭和31・3	甲府湯田中学校の生徒募集を休止する。（～昭和35・3）
昭和34・10	体育館兼講堂延1,049㎡を建築する。
昭和35・4	中学校の生徒募集を再開する。
昭和35・12	1日、創立60周年記念式典を挙げる。新校歌を制定し、新校旗を樹立する。
昭和38・3	鉄筋1号館（西校舎）925㎡が竣工する。
昭和39・4	家庭科を家政科に名称を変更する。
昭和40・3	25日、鉄筋2号館（本館東側3階部）1,370㎡が竣工する。
昭和40・4	甲府湯田中学校を休校とする。
昭和41・11	鉄筋3号館（本館西側4階部）1,840㎡が竣工する。
昭和42・2	3日、復興第6号校舎（家庭科実習棟）が全焼する。
昭和42・5	1日、里吉グラウンド用地10,541㎡を購入する。
昭和42・10	鉄筋4号館（家庭科実習棟）756㎡が竣工する。
昭和42・10	30日、里吉グラウンドに管理棟が設置される。
昭和42・11	3日、歩道橋を設置する。
昭和45・8	30日、車庫49.52㎡が完成する。
昭和45・10	31日、創立70周年記念式典を挙げる。スクールバスを購入し、制服を改定する。
昭和46・10	18日、理事長伊藤祐文死去により、学校長斎藤俊章の兼任となる。
昭和47・10	31日、鉄筋2号館（本館東側）4階部分に4教室393㎡を増築する。鉄筋1号館3階部に便所18.9㎡を増築する。
昭和48・3	26日、東八代郡境川村に学校用地8,972㎡を購入する。（昭和59年8月、体育館増築資金として処分）
昭和50・3	家政科を廃止する。
昭和52・5	9日、甲府市医師会から移管されたMS学院を甲府MS学院（医療秘書科）と改称し、鉄筋1号館（西校舎）に開設する。

昭和52・7	1日、伊藤信学校長に就任。斎藤俊章理事長専任となる。
昭和53・3	2日、甲府 MS 学院は各種学校として県の認可を受ける。
昭和53・3	31日、鉄筋5号館（創立80周年記念館）1,954.7㎡が竣工する。
昭和54・3	20日、甲府市里吉一丁目に学校寮（若草寮12室）を設置する。
昭和55・10	29日、創立80周年記念式典を挙げる。スクールバスを購入する。
昭和56・4	1日、甲府 MS 学院内に歯料秘書（DS）科を新設する。
昭和57・7	5日、OA センター YAMANASHI を開設する。
昭和59・4	16日、専門学校ニュービジネスアカデミーを鉄筋5号館（創立80周年記念館）に設立する。
昭和60・1	6日、体育館へ格技場402㎡を増築する。
昭和60・7	15日、斎藤俊章死去により、大澤伊三郎理事長に就任する。
昭和61・4	1日、甲府 MS 学院を甲府医療秘書学院と改称する。
昭和62・9	鉄筋6号館（新西校舎1～2F：専門校、3F：音楽室他）1,800.22㎡が竣工する。
昭和63・4	専門学校ニュービジネスアカデミーに情報処理科（2年制）を新設する。
昭和63・6	専門学校ニュービジネスアカデミーを山梨情報科学専門学校と改称する。
平成2・3	甲府医療秘書学院は専門学校として県の認可を受け、専門学校甲府医療秘書学院（2年制）と改称する。
平成2・12	1日、創立90周年記念式典を挙げる。スクールバスの購入、校歌碑の建設、新応援歌の制定、制服の改定等を行う。
平成4・4	山梨情報科学専門学校 OA ビジネス科（1年制）を廃止し、システム科学科（3年制）を新設する。
平成4・6	学校長伊藤信、理事長兼任となる。
平成4・9	里吉グラウンドに夜間照明装置を設置する。
平成5・2	25日、里吉グラウンド内一部国有地18㎡の払い下げを受ける。
平成5・6	甲府市幸町2628-2に専門学校用地1,462㎡を購入する。
平成5・8	甲府市里吉一丁目に寄宿舍・若草寮（寮用地568.85㎡、寄宿舍421.26㎡）を購入する。
平成6・3	専門学校甲府医療秘書学院・山梨情報科学専門学校は甲府市太田町10-2（新西校舎）より、甲府市幸町18-12に新築（鉄筋コンクリート造り陸屋根3階建、2,217.35㎡）し、移転する。
平成6・4	1日、中山眞次学校長に就任。伊藤信理事長専任となる。商業科 OA コースを情報ビジネス科に名称を変更する。普通科に音楽コースを新設する。（新西校舎）
平成6・11	4日、専門学校甲府医療秘書学院創立20周年記念式典を挙げる。
平成7・4	1日、商業科に OA コースを新設する。
平成8・4	1日、普通科に特進クラスを新設し、音楽コースを音楽科に名称を変更する。
平成11・4	1日、理事長伊藤信、学校長兼任となる。
平成12・4	初めての男子生徒が音楽科に2名入学する。
平成12・12	1日、創立100周年記念式典を挙げる。

平成13・4	制服（夏服のみ）を改定する。
平成14・4	1 日、商業科を発展的廃科とし、情報ビジネス科を情報メディア科に名称を変更する。 介護福祉科を新設し、男女共学とする。普通科に人間文化クラスを新設する。
平成14・11	1 日、甲府市青沼三丁目 333 番 4 に学校用地 719.03 ㎡を購入する。
平成15・11	1 日、音楽科創設 10 周年記念式典を挙げる。
平成16・3	22 日、鉄筋 7 号館（北校舎）942.57 ㎡が竣工する。
平成16・8	本館耐震工事をする。スクールバスを購入する。
平成16・11	2 日、専門学校甲府医療秘書学院創立 30 周年記念式典を挙げる。
平成19・4	1 日、伊藤信理事長、学園長兼任となる。伊藤祐寛学校長に就任。普通科人間文化クラスを男女共学とする。 伊藤信理事長旭日小綬章を受章する。
平成20・1	25 日、甲府市青沼三丁目 330 番に清和ホール用地 240.26 ㎡を購入する。
平成20・4	1 日、山梨情報科学専門学校を山梨情報専門学校に改称する。
平成 21・4	1 日、普通科進学クラスを男女共学とする。介護福祉科を福祉科に名称を変更する。制服を改定する。
平成 22・4	1 日、情報メディア科を男女共学とする。学校法人優和学院との合併により、優和福祉専門学校が伊藤学園傘下に入る。
平成 22・12	1 日、創立 110 周年記念式典を挙げる。新校歌を制定し、マイクロバスを購入する。
平成 23・4	1 日、甲府湯田高等学校を甲斐清和高等学校と改称するとともに、学科を普通科と音楽科に改編し、完全男女共学とする。
平成 23・5	25 日、家庭科棟 756 ㎡を解体する。
平成 23・6	14 日、北校舎隣地 12.29 ㎡を購入する。
平成 23・8	記念館の耐震補強工事、正門、塀、校庭舗装等の外構工事をする。
平成 23・8	16 日、清和ホール 124.45 ㎡が竣工する。
平成 25・8	体育館耐震補強工事をする。
平成 25・12	21 日、音楽科創設 20 周年記念式典を挙げる。
平成 26・10	1 日、学校法人中央商科専門学校を吸収合併する。（土地 938.42 ㎡、建物 1,794.27 ㎡）
平成 26・11	22 日、専門学校甲府医療秘書学院創立 40 周年記念式典を挙げる。
平成 27・10	1 日、通信制課程を甲府市寿町 10-8 に開校する。
平成 27・11	11 日、伊藤信理事長死去。
平成 27・12	9 日、学校長伊藤祐寛、理事長兼任となる。
平成 30・4	1 日、制服を改定する。
令和 1・5	30 日、北校舎南に憩いの広場用地 189.04 ㎡を購入する。
令和 2・5	25 日、北校舎南に憩いの広場が完成する。
令和 2・12	1 日、創立 120 周年記念式典を挙げる。スクールバスを購入する。

あとがき

1900（明治33）年に学祖・伊藤うた先生がこの学園を創立してから、120周年を迎えます。この「変わらない思い 明日をひらく 120周年記念誌」は、110周年の折の記念誌「輝き、未来へ 110周年記念誌」をベースとしてこの10年間の資料を加え、再編集しました。この10年を振り返ったとき、学園にとって最も大きな出来事といえば、「校名変更」そして「完全男女共学化」ではないでしょうか。

まず、「甲斐清和高等学校」となった校名ですが、この名称には大きな願いがこめられています。「甲斐」はもちろん、ここ山梨の昔ながらの呼び名です。さらに「清」には「清浄潔白」、「和」には「道徳にかなった立派な行い」という意味がそれぞれあります。つまり、「甲斐のまほろばに位置し、そこに集う生徒らが、良き友人・教師との豊かな交わりの中で、道徳心を育み、品格を高め、叡智を磨き、かけがえのない将来に向かい、確かな歩みを始める」という目標を掲げた校名となっています。

そして完全男女共学化については、この120年間、学園は時代の情勢に合わせてそのときに最も適した教育を行ってきました。男女共学化はその流れに即したものであり、現在では女子生徒はもちろんのこと、男子生徒もさまざまな場面で目覚ましい活躍を成し遂げているところは皆様もご存じの通りかと思います。

その他にも通信制課程の開校など、さらなる発展を遂げてきた学園ですが、2015（平成27）年には学園中興の祖ともいえる伊藤信先生がご逝去されたことは大きな悲しみでありました。その伊藤信先生は110年記念誌にこんな言葉を残されています。「本校には長い歴史と伝統があります。長い歴史はよき伝統を生み、創立以来の校風をつくり続けております。」築いてきた歴史、そしてそこから紡がれた伝統と校風を大切にしながらも、時代の風を取り入れ、また新しい未来へと歩んでいく、そんな学園でありたいと願っております。

最後に、編集にあたりいただいた各方面からのご支援、ご協力に対して厚く御礼申し上げ、編集後記いたします。

編集委員

村松久 藤森正貴 篠原康子 名輪求 高野みか

【参考文献】

- 『70年のあゆみ 創立70周年記念誌』伊藤学園・甲府湯田高等学校（1971）
『80年のあゆみ 創立80周年記念誌』伊藤学園・甲府湯田高等学校（1981）
『90年のあゆみ 創立90周年記念誌』伊藤学園・甲府湯田高等学校（1992）
『創立100周年記念誌 新たな世紀へ◎湯田高100年』学校法人伊藤学園 甲府湯田高等学校（2000）
『創立110周年記念誌 輝き、未来へ』学校法人伊藤学園 甲府湯田高等学校（2010）
『雪中梅花 伊藤学園百年の歩み』山梨日日新聞社（2000）
『雪中梅花 伊藤学園百十年の歩み』伊藤学園甲斐清和高等学校（2012）
『専門学校甲府医療秘書学院 創立40周年記念誌』学校法人伊藤学園 専門学校甲府医療秘書学院（2015）
国立国会図書館デジタルコレクション『山梨県女子師範学校山梨県立山梨高等女学校一覧』
山梨県女子師範学校（1926）〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/925832>〉

学校法人 伊藤学園 甲斐清和高等学校
創立120周年記念誌「変わらない思い 明日をひらく」

発行日 令和2年12月1日
発行 学校法人伊藤学園 甲斐清和高等学校
創立120周年記念事業実行委員会
編集 創立120周年記念誌編集委員会
制作 山梨日日新聞社
印刷 株式会社 サンニチ印刷



学校法人 伊藤学園

甲斐清和高等学校

KAISEIKA HIGHSCHOOL

【全日制】

〒400-0867 甲府市青沼3丁目10-1
TEL : 055(233)0127 FAX : 055(233)0129
E-mail seika@ito-gakuen.ed.jp
URL <http://seika.ito-gakuen.ed.jp>

【通信制】

〒400-0033 甲府市寿町10-8
TEL : 055-221-7888 FAX : 055-221-7890

学校法人 伊藤学園

専門学校甲府医療秘書学院

〒400-0857 甲府市幸町18-12
TEL:055(232)8541 FAX:055(231)0875
E-mail ms@ito-gakuen.ed.jp
URL <http://ms.ito-gakuen.ed.jp>

学校法人 伊藤学園

山梨情報専門学校

〒400-0857 甲府市幸町18-12
TEL:055-237-5278 FAX:055-237-5275
E-mail yjk@ito-gakuen.ed.jp
URL <http://yjk.ito-gakuen.ed.jp>

学校法人 伊藤学園

優和福祉専門学校

〒409-3853 中巨摩郡昭和町築地新居374-1
TEL:055-268-6001 FAX:055-268-6003
E-mail yuwa@ito-gakuen.ed.jp
URL <http://yuwa.ito-gakuen.ed.jp>

KAISEIKA
120th

創立120周年記念式典

令和2年12月1日(火) 13:00

YCC県民文化ホール(大ホール)

式典 13:30~14:05

開式の辞	村松 久
理事長挨拶	伊藤 祐寛
祝辞 山梨県知事	長崎幸太郎
甲府市長	樋口 雄一
同窓会会長	神澤 玲子
P T A会長	反田 賢一
来賓紹介	
祝電披露	
生徒代表挨拶	青木 拓都
閉式の辞	村松 久

記念講演 14:15~15:00

講師 谷川俊太郎氏
覚 和歌子氏